



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

パラオ共和国

— 2016年度 地域巡回機能回復等支援事業 —
(終了時評価—2017年4月)

事業概要

国名	パラオ共和国
プロジェクト名	2016年度FDAPIN VIプロジェクト
実施期間	2016年7月18日(覚書署名)～2017年3月31日
相手国政府覚書署名省庁名及び実施機関	覚書署名省庁：天然資源環境観光省 実施機関：海洋資源局(BMR: Bureau of Marine Resources)

プロジェクト実施の経緯と背景

パラオ共和国(以下「パラオ」という。)海洋資源局(以下「BMR」という。)が策定した国家開発計画(National Master Development Plan 2020)には、国民への蛋白資源の供給増大のため、以下の8項目が目標として設定されている。

- ・ 地元漁業者の雇用と収入機会の創出
- ・ 長期的に持続可能な総合的水産資源管理の実現
- ・ カツオ・マグロ漁業資源を利用した漁業へのパラオ漁業者の参加促進
- ・ 増養殖及び未利用水産資源の開発とその輸出促進化
- ・ 水産物の漁獲、取扱い、保管及び流通の効率向上
- ・ 既存水産関連施設の利用改善と戦略的拠点における施設整備



- ・ 輸出向け水産物の監視体制の確立と輸出産業の純利益の増加
- ・ 水産物の国内需要への充足

また、2013年に策定した「パラオ BMR 5か年戦略計画(2013年10月～2018年9月)」(Republic of Palau Bureau of Marine Resources 5-Year Strategic Plan(October 2013 to September 2018))において、「沿岸漁業や養殖に関するインフラ(製氷施設、養殖施設、ボート、船外機等)を整備し完全に機能させること」、「既存のすべての BMR 製氷施設を完全に機能させること」を目標に掲げている。

このような基本政策に基づき、同国政府は各種の漁業振興策を実施しているが、同国の水産関連施設は、故障や老朽化等のため本来の機能を発揮することができず、漁業活動に支障を来している。

このため、パラオ政府は、公益財団法人海外漁業協力財団(以下「財団」という。)に対し、関連施設等の修理・修復並びに現地技術者への技術指導についての要請を行った。

財団は、我が国とパラオとの漁業関係の重要性を踏まえ、同国政府の漁業振興政策を支援するために、本プロジェクトを実施した。

目標・成果・活動内容等

上位目標	パラオにおいて漁業の生産性が向上し、小規模漁業が発展する
プロジェクト目標	関連施設の修理・修復及び技術移転 水産関連施設の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術の向上
成果	BMR 製氷施設の修理・修復及び技術指導 BMR 製氷施設の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。
活動	BMR 製氷施設の修理・修復及び技術指導 アイライ州製氷施設に製氷機等を移設する。その他各州 BMR 製氷施設を修理・修復する。カウンターパートに対し、修理・修復に係る技術指導を行う。

投 入	<p>財団側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家： 計画： 〔巡回指導〕 チームリーダー兼漁船機関専門家 1名 冷凍機器専門家 1名 2016年11月初旬～12月中旬(50日) 実績： 〔第1回巡回指導〕 チームリーダー兼漁船機関専門家 1名 2016年8月15日～8月19日(5日) 〔第2回巡回指導〕 チームリーダー兼漁船機関専門家 1名 2016年11月1日～12月24日(53日) 冷凍機器専門家 1名 2016年11月6日～12月24日(49日) 〔第3回巡回指導〕 チームリーダー兼漁船機関専門家 1名 2017年2月25日～3月15日(19日) 冷凍機器専門家 1名 2017年2月28日～3月15日(16日) <p>延日数 計画：100人・日 実績：142人・日（計画対比：142%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業費： 予算額 17,897千円 実績額 18,742千円（予算対比：104%） ・ 主な資機材： 製氷機ユニット1セット、修理用パーツ一式 他 <p>相手国側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カウンターパート： BMR 製氷施設の修理・修復及び技術指導 BMR 1名 (2016年8月16日～8月18日) (2016年11月7日～12月23日) (2017年3月1日～3月14日) ・ プロジェクト関連予算・土地、施設等： アイライ州製氷施設における電線敷設作業及び水道配管作業、 BMRにおける執務室及び電気・水道・電話(国内回線)の無償提供
-----	---

評 価 事 項

1. 対象国政府の水産振興政策との整合性

本プロジェクトは、BMR が策定した「パラオ BMR 5 か年戦略計画(2013 年 10 月～2018 年 9 月)」に目標として掲げる「既存のすべての BMR 製氷施設を完全に機能させること」に合致した事業内容であり、妥当であると判断される。

2. 協力ニーズ(対象国、対象地域)との整合性

パラオ国政府から、水産関連施設の修理・修復及び現地技術者への技術移転並びに関連組織への指導・助言を要請されており、事前調査において BMR 製氷施設の修理・修復及び技術指導並びに関連組織への指導・助言に対する協力ニーズが高いことが確認されている。

3. 環境に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトでは、直接環境に影響を与える活動はなく、冷媒、廃棄部品等の扱いについては、適切な回収装置を用いるなど、常に環境保全に配慮している。

4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトは、水産関連施設の機能回復を図るものであり、製氷活動が再開されることで間接的に現地零細漁業者の漁業活動が活発になることが想定される。しかし、氷を用いる漁業者は底釣り、引き縄、魚突き漁業等の零細漁業者が主であり、漁獲圧力は高くない。また、パラオ政府は、水産物の漁獲に関して、ハタ類の漁獲禁止期間、ナポレオンフィッシュの捕獲禁止等、漁業規制を法制化している。

なお、パラオ政府は TNC(The Nature Conservancy)の協力を得てパラオ北部リーフを対象にして、水産資源管理と漁業開発を両立させるため漁業者協会を設立している。取組の一環として底魚の全面捕獲禁止(一定期間)等の規制も実施しており、水産資源管理に積極的に取り組んでいる。

5. その他(プロジェクト関連予算、土地、施設等受け入れ態勢は決められたとおりに実行されたか等)

特になし。

◆ 効 率 性

1. 事業費及び実施期間

プロジェクト活動を年度内にすべて完了したが、BMR が行う電線敷設及び水道配管工事が予定より時間を要したため、適宜スケジュールの見直しを行い、事業費が 4%、実施期間が 42%増加した。

2. 資機材、施設、専門家はタイミングよく投入され、期待された機能、能力を発

揮していたか

BMR 側で行う電線敷設作業及び水道配管作業に時間を要したことにより、第 2 回巡回指導時に実施予定であったアイライ州製氷施設への製氷機等の移設作業は第 3 回巡回指導時にずれ込んだが、予定されていたプロジェクト活動は年度内にすべて完了し、期待された機能及び能力を発揮した。

3. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

移転技術は、専門家が事前調査においてカウンターパートの技術水準を見極めた上で指導内容を検討しており、実施に当たっては適切な指導が行われたことから、カウンターパートの水準に適合していた。

4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか

上記 1 のとおり、一部、事業の実施がずれ込んだが、適宜スケジュールの見直しを行い年度内に事業を完了させた。

5. その他（プロジェクトの効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

事前調査時に BMR 側で実施することが同意されていた電線敷設及び水道配管の工事に関して、配線方法の決定に時間を要した。

◆ 有効性

1. プロジェクト目標の達成度

1) プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標： 関連施設の修理・修復及び技術移転

水産関連施設の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術の向上

計画どおり水産関連施設の機能が回復し、また、必要な技術移転が行われ、技術指導によるカウンターパートの基礎知識及び技術レベルは向上したことからプロジェクトの目標は達成された。

2) その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

特になし。



【アルコロン州製氷施設：コンデンサー漏えい箇所修理】

2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

BMR 製氷施設の修理・修復及び技術指導

施設の修理・修復を行い、BMR のカウンターパートに修理・修復に関する技術指導を行ったことにより、技術レベルが向上し、施設の稼働が円滑になった。

<期待された成果>

BMR 製氷施設の修理・修復及び当該施設の維持・管理に係る技術が向上する。



【ペリリュー製氷施設：自動膨張弁交換】

◆ インパクト

1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

本プロジェクトの実施により、製氷施設の修理・修復に関する BMR のカウンターパートの技術が向上したことから、プロジェクト目標は達成された。

今後、製氷施設が順調に稼働することにより周辺漁民に氷が円滑に供給され、廃棄される魚も減少した。また一方で、漁獲物の鮮度も保たれ市場価値も上がり、漁民の所得向上にも繋がることから、上位目標である「パラオにおける漁業生産性の向上による小規模漁業の発展」の達成に一定の効果을及ぼすとともに、BMR が策定した「パラオ BMR 5 年戦略計画(2013 年 10 月～2018 年 9 月)」に目標として掲げる「既存のすべての BMR 製氷施設を完全に機能させること」の達成にも寄与する。

2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

本プロジェクトの実施により、各製氷施設が安定的に稼働し、氷が周辺漁民に円滑に供給されるようになった。今後、製氷施設が順調に稼働すれば、魚価が上がり漁民の所得が向上することから、対象地域の経済に直接的な効果を及ぼす。

また、氷は周辺住民にも供給されることから、民生向上に寄与し、対象地域の社会・経済に直接的な効果を及ぼす。

3. その他(ターゲットグループに対するインパクトやプロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれるか等)

特になし。

◆ 持続性

1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

カウンターパートはBMRの職員で、プロジェクト終了後も引き続き本施設の管理を担当する予定である。

供与された製氷機は、漁民及び周辺住民に不可欠な氷を供給するものであり、プロジェクトを通じてカウンターパートに適切に技術移転されたことから、プロジェクト終了後も有効に活用される。

2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

本プロジェクトにより施設の機能が強化され、継続的な活動を可能にする人的・物的環境が整備された。また、BMRは「パラオBMR5か年戦略計画(2013年10月～2018年9月)」により、既存のBMR製氷施設の活用を推進しており、当該施設の継続的運営が同国の沿岸漁業振興に不可欠であることを認識している。従って、本プロジェクト終了後も、この効果は持続的に発揮される見込である。

3. その他（持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上